

令和6年度 群馬県中学校総合体育大会卓球大会 競技・運営細則

群馬県中体連卓球部

1. 試合方式

- (1) 団体戦：トーナメント方式及び、リーグ方式で行う。
- (2) 個人戦：トーナメント方式で行い、3位決定戦は行わない。
ベスト8決定戦で敗れた選手は再抽選を行い、トーナメント方式にて、関東大会出場選手を決める。
- (3) 推薦チーム・選手：
 - ・団体戦における、ベスト4のチームの地区には、当該年度新人大会の地区推薦枠を与える。
 - ・個人戦においては、2年生以下でベスト16の選手は、当該年度新人大会の推薦出場選手とする。
- (4) 上位大会
 - ・団体戦上位4チームは、関東卓球大会の群馬県代表チームとする。
※今年度は群馬県開催のため、出場チームは1チーム増えている。
 - ・個人戦においてはベスト8の選手8名と代表決定戦を勝ち抜いた選手6名は、関東卓球大会の群馬県代表選手とする。
※今年度は群馬県開催のため、出場人数は3人増えている。
- (5) その他：使用球は、40mm3スター球（ホワイトボール）とし、3社（ニッタク・VICTAS・タマス）からの選球とする。

2. 運営方法

- (1) 進行予定表：大会開催日の初戦は、すべて一斉開始とする。その後は、進行予定表にしたがって試合を進めるが、進行予定表は、あくまで試合開始の目安とし、試合の進行具合によって、コート変更や時間の変更がある。

(2) 審判

1 個人戦

- ・ その日の最初の試合はそのコートの第二試合の選手が1ゲームごとに交代で審判を行う。男女とも抽選・コート整備後の試合は役員や敗者が審判をしたり、所属するチームから1人ずつ相互審判で試合を行ったりすることとする。前述の試合以外は、敗者審判とする。
- ・ 試合の勝者が記録を本部席（進行席）に持ってきて、次の試合の記録用紙を敗者に渡し、敗者はそのまま審判をする。
- ・ 進行によっては、違うコートの審判をしたり、審判をしなかったりする場合がある。その際は、本部から指示をする。
- ・ 勝者は、引き続き試合がある場合があるので、その際には観覧席に上がらずに、フロア付近（ただし、試合会場内からは一旦出る）で待つこと。

2 団体戦

- ・ すべての試合で、試合の公正を期すためできるだけ相互審判とする。
- ・ ベンチ入りできる選手は10名までとする。

3 審判をする生徒

- ・ 選手等のアピールに惑わされることなく、自らの判断によって公正に行うこと。
- ・ 主審はジェスチャーをはっきりとし、ダブルスはセンターラインをしっかりと見ること。
- ・ 副審はカウンターを胸の高さにし、6ポイントごとに90度回転させること。

(3) オーダー交換

- ・ 団体戦のオーダーは、相互交換方式とする。
- ・ 試合開始が早まる可能性もあるので相手チームが決まり次第、オーダーの準備をすること。

(4) 選手変更

- ・ 団体戦において選手変更がある場合には、事前に登録変更届に必要な事項を記入し、当日の受付に提出すること。提出されたもののうち、競技副委員長が認めた者のみ変更を了承する。
- ・ ケガや急病などで選手が揃わないときには、1番または1・2番を棄権として試合を行う。なお、その旨を速やかに審判長に報告すること。4名に満たないときにはチーム全体を棄権とする。
- ・ 個人戦においては、選手変更は認められず棄権となる。

(5) その他

- ・ 団体戦におけるベンチは、本部（進行）から指示することがある。
- ・ 開会式には上下ユニフォームで参加すること。
- ・ 表彰式については、1日目に団体戦、2日目に個人戦および閉会式を、それぞれ行う。
- ・ 表彰が終わり次第、写真撮影を行うので、表彰式にはユニフォームで参加すること。

3. ルール

(1) 競技者は、各地区から選ばれた代表であることを誇りに、スポーツマンシップに則り、ルールを遵守し、身仕度を整え、正々堂々と競技すること。

(2) ルール

- ・ 現行の日本卓球ルールを適用し、実施する。
- ・ 1ゲーム11本制、サービス2本交代、5ゲームズマッチとする。
- ・ 以下の項目については、県中体連独自のものや、特に注意の必要な項目について記載する。

(3) 勝敗

- ・ 団体戦は、トーナメントではオーダーに関係なく3点先取とする。
- ・ トーナメント戦の場合、どちらかのチームが初戦の場合にのみ、勝敗決定後も5番の選手まで1ゲームのみ行うものとする。

(4) サービス

- ・ ルールに基づいた正規のサービスで競技すること。
- ・ ルールに「サービス開始からボールが打球されるまでサーバーまたはダブルスのレシーバーのパートナーの体の一部または着用している物で、ボールをレシーバーから隠してはならない（常にボールを明らかにレシーバーに見えるようにする）。ボールが手のひらから離れたら、すぐにフリーアームを、ボールとネットとの間の空間外に出さなければならない」とあるように「ボールを『16cm以上』『ほぼ垂直に』投げ上げる」よう心がけることが肝要である。
- ・ 疑わしいサービスと思われるときは、審判をしている生徒や当該チームの監督がフォルトをとるのではなく、審判部に連絡をし、審判部がその試合の審判を行い、判定をするものとする。
※ 今までの大会で見られた違反サービス（違反に近い）をふまえ、以下に具体的にサービスの際の注意点を示す。

- 1 オープンハンド（指にかからぬよう手にひらにボールをのせる）で、しっかりと静止する。
- 2 ボールを投げ上げる際は、ボールをのせた手が一度台の下に沈むことなく、指にかけずに16cm以上に垂直方向（斜めにトスしない）に投げ上げる。
- 3 インパクトは、投げ上げたボールが落下してきたところ（ぶっつけサーブにならない）で行い、エンドラインよりも後方の位置（台上にならないよう）で、インパクトする。
- 4 サービスの開始（オープンハンドで静止）から、インパクトまでの瞬間が、常にレシーバーから見えるようにする。

(5) タオル等

- ・ タオルの使用は、6本ごとのサービスチェンジと、ファイナルゲームのチェンジエンドの時のみである。
- ・ 滑り止めの雑巾を使用する場合は、雑巾が床に触れないように敷物の上に載せ、審判の横に置くこと。使用するタイミングは、タオルの使用と同じとする。

(6) 抗議権

- ・ 抗議権を持つのは、個人戦では競技者本人であり、団体戦では監督のみである。
- ・ 団体戦における外部指導者には抗議権はない。
- ・ 主審または副審による事実の判定には抗議できない。

(7) 監督・アドバイザー

- ・ 団体戦において、ベンチに入れるのは、申込時に登録された監督・アドバイザーの2名とする。
- ・ 個人戦において、ベンチに入れるのは、申込時に登録された監督・アドバイザー、当該チームの生徒のうち1名のみとする。複数の選手を抱え、アドバイザーとしてベンチに入る可能性がある場合、ベンチを空席にしておき、複数のベンチを移動することができる。ただし、選手1名に対して1名のアドバイザーとする。
- ・ 外部指導者については、外部指導者申請書を期日までに提出し、競技副委員長より認められた者に限る。原則として年度途中での届出は認めない。
- ・ 外部指導者についての具体的な規定は、「群馬県中学校体育連盟主催大会の外部指導者のベンチ入り規程」によるものとする。

(8) ID章

- ・ 監督・アドバイザーは、ID章を受付で配布するので、必ず首から提げ、常に携帯していることが分かるようにする義務がある。
- ・ ID章を携帯せずにベンチ入りしている場合には、競技役員より注意を与えるが、その指示を無視する等の行為があった場合には、退場、選手の失格などのペナルティーを課す。
- ・ ID章は、1年間、各チームで管理し、中体連主催の大会の際で必ず首から提げておくこと。

(9) 促進ルール

- ・ 促進ルールは、1ゲームで10分を経過し競技者（組）双方の合計が18点（9-9、8-10、10-8）以上に達していない場合に、適用する。
- ・ 競技者（組）双方の合意があればいつでも適用することができる。
- ・ 進行（本部）より指示をする場合もある。

(10) タイムアウト

- ・ タイムアウトは1マッチに1回、ラリーとラリーの間に、1分以内の「タイムアウト」を要求することができる。
- ・ タイムアウトは主審に対して口頭および手で「T」を示し、要求すること。
- ・ 同時に両者からのタイムアウトを申し出たときは1分のみとなる。
- ・ 個人戦の場合は競技者またはアドバイザーがタイムアウトの要求ができる。団体戦においては、競技者、組または監督がタイムアウトを要求できる。ただし、団体戦において複数台を使用して行う際にはアドバイザーがタイムアウトを要求してもよいとする。

(11) アドバイス

- ・ ゲーム間のアドバイスは1分以内とし、それ以外にアドバイスは認められない。また、試合中にコート外からアドバイスと受け取られるような声かけ、ジェスチャーはしない。
- ・ 審判部の指示を無視して、1分以上のアドバイスを続けたり、試合中にアドバイスと受け取られる

ような行為を続けたりすることがあった場合には、警告、退場などのペナルティーを課す。

- ・ 原則としてプレー領域でアドバイスをする事。（選手はプレー領域を離れないこと。）

(12) ラケット・ラバー等

- ・ ゲーム間は、ラケットを卓球台（テーブル）の上に置いてから、ベンチに戻る事。
- ・ ルールに適合したラケット・ラバーで試合に臨むことは選手自身の責任である。
- ・ ラケットは、J.T.T.A.の刻印および商標がついているラケットとする。外国製のラケットで、J.T.T.A.の刻印がないラケットは、試合前に審判長の許可を得て使用すること。
- ・ ラバーは、J.T.T.A.が公認したことを示すJ.T.T.A.またはITTF公認のロゴがあるものを使用すること。両面異色（片方が無光沢の明るい赤等、他方が無光沢の黒）でラケット本体より大きかったり、小さかったりしてはならない。（ラバーの厚みは4mmを越えないこと）
- ・ ラバーの接着剤は公認のシートか水溶性の接着剤を使用すること。
- ・ 無作為抽出でラケット検査を実施する場合がある。

(13) ユニフォーム

- ・ 競技服装は半袖シャツ、ショーツまたはスカートとし、J.T.T.A.公認のもののみとする。
- ・ 試合球がホワイトボールであるため、プレーの妨げとなる心配のある白色を基調としたユニフォームの着用はできない。また、監督、アドバイザー、審判員等の服装についても同様とする。
- ・ 団体戦においては、選手は同じ服装が必要である。ただし、半袖シャツは同一のものとし、ショーツ・スカートについては、同色であれば多少のデザイン違いでも構わないものとする。
- ・ 対戦する競技者またはチームが似かよったユニフォームの場合には、審判長より、くじ等によってユニフォームを変更させる競技者またはチームを決めることがある。

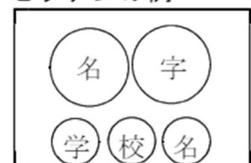
(14) その他

- ・ 試合開始直前に2分程度、その試合で使用する卓球台（テーブル）で練習できるが、正規の休憩時間には練習できない。また、空いている台での練習は、指示のない限りできない。

4. 選手としてのマナー

- ・ 試合開始前と終了後にしっかりとあいさつをすること。
- ・ ゼッケンは、見苦しくない高さで、安全ピン等で固定すること。
- ・ ゼッケンは日本卓球協会のものが望ましいが、それ以外のものでかまわない。日本卓球協会以外のもを着用する場合には、右のような形式で、選手名と学校名が記載されているものとする。
- ・ 競技者、監督が相手の競技者に対して不当な影響を与えたり、観客に不快感を与えたり、ゲームの評判を落としたりするような癖や態度（大声で繰り返し叫んだり叫び声に近い大声を出したりする、相手の選手を威嚇する、故意にボールを蹴ったり競技領域外に打って出す、卓球台やフェンスを乱暴に扱う）や無断でラケットを交換、審判部の指示を無視する等の行為があった場合には、警告、相手のポイント、退場、失格などのペナルティーを課す。
- ・ 遅延行為（タオルの使用、ポイント間やゲーム間等による）は、バッドマナーとしてペナルティーを課す。
- ・ 飲み物は床が濡れないように、ドリンクホルダー等に入れること。
- ・ 試合に不必要な装飾品などはつけてはならない。
- ・ 団体戦において試合開始の挨拶後に、円陣等を組む学校があるが、遅延行為となるためバッドマナーである。競技役員の指示を無視する等の行為があった場合には、警告、相手のポイント、退場、失格などのペナルティーを課す。

ゼッケンの例



(B5程度の大きさ)

5. 応援、観客のマナー

- ・ 応援用の部旗等は、非常口（案内表示等も含む）を隠さない場所、大会看板を隠さない場所、プレーに支障のない場所等に掲げること。
- ・ 登録選手が応援する場合は、プレーや大会運営に支障にならないよう、フェアな態度で行い、過度なものにならないようにすること。また、選手に不当な影響を与えたり、観客に不快感を与えたり、ゲームの評判を落としたりするような応援（大声で叫び汚い言葉、相手を威嚇する言葉、相手をおとしめる言葉等）等の行為があった場合には、警告、退場などのペナルティーを課す。
- ・ 監督やアドバイザー等の応援について、アドバイスと受け取られる表現については警告、退場などのペナルティーを課す。
- ・ 観客席からのアドバイスは禁止である。競技役員の指示を無視して、アドバイスを続ける等の行為があった場合には、警告、応援団の退場などのペナルティーを課す。
- ・ うちわやバルーンなど、音が出るものでの応援を禁止とする。
- ・ 観客席での応援については、アドバイスとならない内容での声援を可とする。

6. 一般的な注意事項

- ・ 練習や試合の際には安全に配慮し、水分補給を十分に行い、熱中症等にならないよう注意する。
- ・ 大会期間中の参加者の負傷、傷病等については応急手当のみ行い、必要に応じて近くの病院を案内する。参加者は保険証（または、そのコピー）を持参すること。なお、学校教育活動であるので、「独立行政法人日本スポーツ振興センター法」の適用となる。
- ・ 駐車場は指定の場所とする。また、引率者、保護者、バス等も係員の指示に従うこと。
- ・ フロアには、役員、監督、アドバイザー、選手等認められた者以外は入ることができない。また、認められた者も必要がないときには必ず、フロア外へ出て観客席で応援、見学すること。その他も観覧席で応援、見学すること。
- ・ 持ち物の管理、特に盗難には十分注意すること。
- ・ トイレにいたずらをする行為が過去にあった。会場を適切に使用し、美化に努め、ゴミはすべて持ち帰ること。
- ・ フラッシュ撮影は、選手のプレーの妨げとなるので、絶対に行わないこと。
- ・ 会場を大切に使用し、大会に関係ない場所への出入りはしないこと。また、会場のコンセントは使用しないこと。